

[専門教育科目/看護の展開/小児看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論 I		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山田 真衣	305	m.yamada	木曜日 16:00～18:00		
授業の目的・概要	子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方について、具体的理解を踏まえた基礎的な実践能力を修得することを目的とする。小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする基本的知識について遠隔授業や演習形式での対面型授業により講義する。それにより、疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について理解できるようになる。				
学習上の助言	この授業では、小児看護学概論で学んだ子どもの成長発達上の特徴や小児看護の基本となる理念等の知識が必要となるため、小児看護学概論で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。				
教科書	・系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論小児臨床看護総論/著:奈良間美保 他/医学書院/2020 ・系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論/著:奈良間美保 他/医学書院/2020 [2冊指定]				
参考書	・ナーシンググラフィカ小児看護学 1 小児の発達と看護/著:中野綾美/メディカ出版/2015 ・ナーシンググラフィカ小児看護学 2 小児看護技術/著:中野綾美/メディカ出版/2014 ・根拠と事故防止からみた小児看護技術 (第2版) /著:浅野みどり/医学書院/2016 ・発達段階からみた小児看護過程 (第3版) /著:浅野みどり/医学書院/2017 ・写真でわかる 小児看護技術 (第3版) /著:山元 恵子/インターメディアカ/2015				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	健康状態、発達段階に合わせた日常生活援助技術が実施できる	NS(1)、(3)			
②	健康状態を判断するアセスメント技術について小児の特徴をふまえた説明ができる	NS(3)、(4)			
③	急性期・周手術期にある子どもと家族への看護について説明できる	NS(3)、(4)			
④	在宅・慢性期にある子どもと家族への看護について説明できる	NS(2)、(3)			
⑤	障害のある子どもと家族への看護について説明できる	NS(2)、(3)、(4)			
⑥	安全を踏まえ子どもが安心して治療やケアを受けるための技術が実施できる	NS(5)			
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション				
2	子どもの日常生活援助と病院で関わる子どもへのブレパレーションやデストラクションについて学習する。	同時双方向型授業	小児看護で使用している言葉の定義を、教科書で確認する。	2	
3	子どもの病気認知と子どもに行われるフィジカルアセスメントについて学習する。	同時双方向型授業	フィジカルアセスメントについて、教科書等で調べる。	2	
4	子どもの清潔ケアに関連するアセスメントの実際について学習する。	同時双方向型授業	基礎で学んだ清潔ケアについて、再度復習をしていく。	2	
7	発熱が身体に及ぼす影響について学習する。	同時双方向型授業	学習した疾患については、教科書等で調べ、ノートにまとめる。	3	
8					
9					
10					
11					
12	呼吸器疾患患児の把握とその対応について学習する。	同時双方向型授業	呼吸器の解剖整理について復習をしていく。また、疾患については復習をしていく。	3	
13					
14	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。	同時双方向型授業	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	1	
15	NICUに入院する子どもと家族について学習する。	同時双方向型授業	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2	
16					
17	抑制や固定が必要な子どもへの援助について学習する。	同時双方向型授業	抑制の必要性について調べる。	2	
18					
19	子どもへの声かけの仕方と点滴入部のシーネ固定法	同時双方向型授業	演習で実施したことを振り返り、練習していく。	2	
20					
21	慢性的な疾患をもつ子どもの再発や悪化を防ぐ治療管理と在宅看護の援助について学習する。	同時双方向型授業	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2	
22					
23	子どもの内服について学習する。	対面授業 実技・GW	演習で実施したことを振り返り、練習していく。	2	
24					
25	手術を受ける子どもの痛みについて学習する。	同時双方向型授業	学習した疾患については、教科書等で調べ、ノートにまとめる。	3	
26					
27	特別講義 外部講師	同時双方向	配布資料等を復習する。	2	

[専門教育科目/看護の展開/小児看護学]

28	小児救急の実際について学習する。	型授業					
29	小児領域の看護展開について学習する。	同時双方向型授業	提示された課題について調べ、ノートにまとめる。			2	
30							
試							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	15	0	0	5	100
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	小児の看護援助の実際について、キーワードを駆使し、説明・記述ができる。知識60%、思考・推論・創造する力20%とする。定期試験期間に試験を実施する。				テスト終了後に、定期試験で出題した問題の解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①	✓	小児の看護援助技術を演習し、小児看護に必要なことや自身の工夫したことを説明・記述ができる。また記述することで、自身の課題を明確にすることができる。知識・技術力を5%、発表・表現伝達する力を10%、問題を発見・解決する力を5%とする。				定期試験前の授業時に、添削し返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	全体を通して、取り組みの姿勢・意欲を5%とする。				授業中に調和が取れていない時は指導を行い、授業が円滑に行えないことを指摘する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
備考							
担当教員：◎山田真衣、深沢淳子							
教員の実務経験： 担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。 実践的授業の内容： この科目は、担当教員が臨床看護実践で得た経験をもとに、小児看護援助において基本的な知識および小児看護技術を必要とする疾患をもった患児とその家族の事例紹介を交えて授業を進めます。これらの事例を組み入れることで実際の小児看護の現場に必要な看護実践の知識を技術の修得を目指し、小児看護援助論IIおよび小児看護学実習につなげます。 ・学習状況により、学習内容の順番が変更になる場合があります。そのときは、紙面で説明をします。 ・大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めません。 ・Teamsを使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨します。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。							